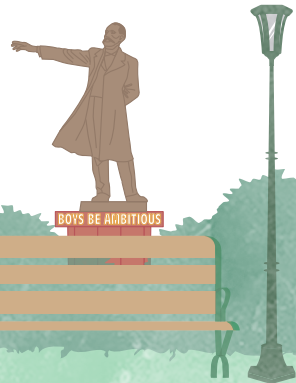


# 北海道の名物先生 & 教育者 4

若者のチャレンジ精神、そして北海道の開拓魂＝  
「フロンティアスピリッツ」を示す言葉  
「Boys, be ambitious (少年よ、大志を抱け)」。  
コート裾をはためかせ、彼方に広がる地平を指差す  
クラーク博士の立像は、諸問題を抱えた教育環境にも  
永遠に希望を与える道民の師であり続けています。  
「志は高く、実践は足元から」。  
理想と情熱、そして子どもたちへの愛に溢れる  
北海道の優れた教員や指導者をご紹介します。



旭川市立大学  
旭川市立大学短期大学部  
学 長 **三上 隆** さん  
工学博士  
公立大学法人 旭川市立大学 副理事長



校舎/旭川市永山3条23丁目



講義風景/経済学部



講義風景/保健福祉学部

- 1949(昭和24)年1月30日 礼文町生まれ(76歳)
- 出身校：北海道大学工学部土木工学科 北海道大学大学院 学位取得/工学修士 工学博士
- 主な経歴：北海道大学工学部土木工学科教授 北海道大学大学院工学研究科教授  
北海道大学評議員、北海道大学工学部長 大学院工学研究科長  
国立大学法人 北海道大学理事・副学長 北海道大学名誉教授
- 専門分野：土木工学(構造工学、地震工学、社会基盤)
- 主な公職：北海道技術者育成プラットフォーム会長 ■趣味：切手収集(土木や礼文島にまつわるもの)

**礼文島は北海道の宝です。  
ぜひ観光などで訪ねてみてください。**

**得意なことを見つけよう**

もともと数学が好きだったこともあり、大学へ進学するならば系だと思っていました。ではなぜ土木工学の世界へ足を踏み入れたのかと言えば、化学や建築などにそれほど惹かれることがなかったこともありですが、たまたま生まれ故郷の礼文島のとある土木工事の事例に触れたことで「土木工学なら私たちの生活をより快適に豊かにし、地域社会に貢献できるのではないか」と考えたからです。そんな動機からでしたが、学びの中で自分が好きなことや得意なことを見つけることが、いかに大切かを身をもって経験しましたから、現在の大学生や受験生にも得意な何かを見つけ成長していくってほしいと思います。

**長く教育界に身を置く者として**  
北海道大学卒業後も同大、大学院で長く教員生活を送り、これまで多くの技術者を育成してきました。退職後、土木系の財団法人から仕事の依頼を受け一時期携わりましたが、教育・研究界に身を置く者としての責務は、やはり教育しかないと思います。2023(令和5)年4月に新たに公立化した旭川市立大学と短期大学の開学と同時に、学

長に就任させていただきました。公立化したことにより、学費負担も軽減されたこともあり、前年度の一般入試(経済学部・保健福祉学部とも)の志願倍率は前期日程で約4倍、後期は20倍を超えるなど、おかげさまで大きな注目を集めています。

また、2026年度には新学部として「地域創造学部」(定員100名)の開設を予定していますので、今後はさらに地域づくりや街づくりを担う人材を育成する大学としての使命感を強めていくこととなります。

**大学へ行かせてくれたのは兄**

私は礼文島で5人兄弟の二男として生まれました。船泊漁業協同組合に勤めていた父は「自分は教育に恵まれなかった。せめて子どもたちには優れた教育を受けさせたい」という希望から、父だけを島に残し、母と子どもたちだけで札幌へ移住することにになりました。礼文が大好きだった私は後ろ髪引かれる思いでしたが、泣く泣く小学6年の秋、友に別れを告げました。

その後、札幌での暮らしにも慣れ、スポーツなどにも親しみましたが、高校1年の時、思いもよらないことが起こりました。父が他界してしまつたのです。

その時ちょうど受験を控えていた兄(高3)は、大学進学を諦め、一家の稼ぎ頭として就職せざるを得ませんでした。私も「大学へは行けないな」と思っていたところ、父の遺志を継ぐかのように、兄が私の大学の学費や生活の面倒をみてくれたのです。姉も協力してくれました。さらに卒業を間近に控えると、兄は私の気持ちを知っていたのか「もっと勉強がしたいんだらう?好きなだけ学んだらいい」と大学院まで行かせてくれました。そんなこともあり、私は彼らに感謝するとともに、恩返しの気持ちから教育者の道を選んだとも言えるのです。

**礼文島を愛する島の宣伝マン**

礼文島を離れて60余年が経ちますが、これまでに何度も島を訪れ、卒業もしていないのに中学校の同窓会の特別会員として参加させてもらっています。また、日頃から事あるごとに礼文島を宣伝し、遊びに行つてほしいとお願ひしてきたところです。礼文にまつわる嬉しい出来事もあります。新桃岩トンネル建設に関われたことは島出身者としての誇りです。また、旭川市立大学として初めて輩出した卒業生の中に、礼文町役場に就職した学生がいたことも大きな喜びでした。今後も地域の活性化に貢献していきたいと思っています。